

対象	No	項目	設問	肯定的回答率 R 2 (回答不能: 件)	肯定的回答率 R 3 (回答不能: 件)	考 察	課 題	次年度の具体的な取組・方向性
保 護 者	1	学校生活 全般	子どもの学校は、全体として満足できるものである。	90.3 (回答不能6)	81.6 (回答不能2)	肯定率はおおむね8割を超えているが、昨年度に比べて、約1割肯定的な割合は、減った。	・学級経営、情報発信が少ないためであると考えられる。	・学校だよりを工夫し児童の学習活動や生活の様子等の情報を積極的に発信する。(学校だよりにQRコードをのせる。) ・学校だよりの書き方のバリエーションを豊かにする(子どもたちの感想文を一部抜粋し、匿名で掲載するなど) ・学校公開を学期に1回(年3回)実施する。 ・教員の指導力を向上させ、学級経営の充実を図る。
	2	一貫教育/ 異校種の協働	連携する小・中学校による小中一貫教育(小・中学校の教員による協働授業、児童・生徒の交流など地域活動への参加等)が進められている。	51.3 (回答不能80)	40.5 (回答不能82)	肯定的な割合が10%以上も減り、否定的な割合が増えた。	・中瀬中との交流が6年生が授業見学をしたのみであったと考えられる。	・3校(中瀬中、桃五小、八成小)合同研修会の実施。 ・例年あった交流の実施を復活させ、事前事後に保護者へ発信する。(挨拶運動、中学校見学、吹奏楽部演奏会、図書委員による読み聞かせなど)
	3	学校評価	学校は、自校の教育活動に関する評価結果とそれに基づく改善策等の情報を提供している。	71.1 (回答不能43)	62.6 (回答不能20)	肯定的な割合が約10%も減り、否定的な割合が増えた。	・HPでの情報発信している状況が保護者に伝わっていない。	・教育評価の公開をする(学校だより、HP)。 ・情報提供した改善策をもとに学校運営に努める。
	4	学級経営	学校では、子どもが安心・安全な学校生活を送ることができる学級づくりを行っている。	88.5 (回答不能7)	74.9 (回答不能3)	肯定的な割合が約15%も減り、否定的な割合が増えた。	・学校公開が少ないからだと考えられる。また、学校公開の日程(時期)を検討する必要がある。	・学校公開を1年に3回実施(教務と相談) ・個別の指導で支援を手厚くする。 ・学級会や学級経営の研修を開く。授業を見合う。
	5	学習の成果	子どもは、学校で学ぶことにより、必要となときに、必要なことを、自ら学んで身に付けることができる力が育っている。		67.4 (回答不能2)	全学年50%を超えているが、学年によって差異が出ている。	・学校公開の機会が少なく、児童が学校で学ぶ様子を保護者が見る時間が少ない。	・コロナの状況を見ながら学校公開の回数を増やす。また、学校だより、学年だより、保護者会などで学校での学習の様子を伝えていく。 ・OJTや外部研修を通して、教員の指導力向上を続けていく。
	6	学習評価	学校は、子どもの学習状況を適正に評価している。	79.5 (回答不能20)	69.3 (回答不能7)	肯定的な割合が10%以上も減り、否定的な割合が増えた。また、回答不能の回答が半分以下に減った。	・学習の評価規準が保護者に適正に伝わっていない。	・保護者会などで学習状況と評価基準のつながりについて繰り返し伝えていき、保護者の理解を深めていく。
	7	ICT機器 の活用	学校は、ICT機器(電子黒板やデジタル教科書等)を活用した授業を行っている。	75.8 (回答不能55)	72 (回答不能24)	学年が下がるにつれて肯定率が下がっている。特に1年生における肯定率が極めて低い。児童アンケートの結果は肯定的な意見が90%以上であるため、保護者に対して伝	・保護者に対して情報発信を続ける。	・ホームページにICTのページを作成する。 ・タブレット便りである「GIGA通信」で連絡事項だけでなく、授業の様子も伝えていく。 ・学校便りを活用していく。
	8	道徳教育	子どもは、学校での生活を通して、他者と共によりよく生きるための力が育まれている。	89.1 (回答不能7)	79.1 (回答不能3)	肯定的な割合が10%減少し、各学年においては80%を下回っているものもある。	・地域や友達との関わりと、よりよく生きるための力とが関連付いていない。	・地域・外部講師の連携授業、友達との関わりなど、道徳授業を関連付けて行う。
	9	体育・健康 教育	子どもは、学校での生活を通して、体力や食、生活習慣をはじめ健康な生活を送る力が育まれている。	90.5 (回答不能6)	84.8 (回答不能2)	肯定率は8割を超えているが、昨年に比べ約5%下がっている。	・学校での取組が見えていないため、なかなか伝わっていない。	・学年だより、学校だよりや保健室だよりの裏面等で、子供の様子が伝わるようにする。

10	教育相談体制	子どもが人間関係や自分自身の心の問題で悩んだとき、学校はその解決を、きめ細やかに支援してくれている。		42.8 (回答不能57)	肯定率が否定率より低い。回答不能も12%ある。	・児童が個別に相談できることが伝わっていない。	・保護者の話を丁寧に聞く。場合によっては、学年主任や管理職を交えて面談を行う。 ・児童→児童と担任の全員面接を行う。いじめ対応の中に実施を明記する。また、来年度のいじめアンケートの中に担任だけでなく、どの先生とも話していることを明記する。 ・保護者会でも何かあれば相談をしてくださいと伝えていく。
11	特別支援教育	学校は、子どもたちの発達に関する課題など、障害理解を深める情報を提供している。	57.8 (回答不能68)	47.2 (回答不能50)	昨年度より肯定率が10.6%下がった。学年が上がるごとに肯定率が上がっている。	・今年度は、ほほえみ便りを発行しているが認知されていない。 ・児童への発達に対する理解教育を行っていない。	・ほほえみ便りを保護者会で配布するようにする。保護者会で説明し保護者の目に取組が目に見えるようにする。 ・特別支援教室のことを理解してもらうために、はちなり教室の紹介をしていく。 ・児童や保護者に、はちなり教室の紹介・特別支援教育について説明できるようにプレゼンテーションソフトを活用し資料を作成する。機会を設けて説明する。
12	特別支援教育	子どもは、特別支援学校や特別支援学級の子どもと交流したりする機会がある。		23.8 (回答不能169)	肯定率が低い。解答不能が35%もある。	・今年度は、感染症もあり副籍交流が活発に行われていない。 ・副籍がない学級は交流がない。	・今後も副籍交流を行っていく。その中で可能な限り学年で関わっていけるような取組を検討していく。交流先と調整しながら進めていく。
13	地域連携	学校は、家庭や地域と連携・協力して教育活動を行っている。	79.7 (回答不能15)	65.3 (回答不能15)	肯定的な割合が約15%も減り、否定的な割合が増えた。コロナ禍で、家庭や地域に依頼・協力しづらい環境である。	・新型コロナウイルス感染症に対する各行事の実施の仕方を再検討し、保護者・地域の方が教育活動に直接的に関わるようなものを増やす必要がある。	・学校だより「月予定」で、地域との連携活動は備考欄に説明を書く。 ・学年だよりで協力しておこなった活動の様子を掲載したり、保護者へのお礼を書いたりする。保護者会の時に感謝の気持ちを伝える。 ・アンケートを取るときに各学年の地域連携行事を具体的に載せる。
14	いじめ防止不登校対策	いじめや不登校などに対して、未然防止、早期発見、解決に向けて、教員が協力して取り組んでいる。		36.5 (回答不能97)	肯定率が低い。回答不能が20%もある。	・教員の協力している動きが保護者に見えない。	・温かい学級経営を心掛け、子供が居場所と感ずるように受け入れる。 ・児童と担任の全員面接を行う。 ・いじめの標語を募集するなど、いじめについて考える機会として人権週間を設定する。 ・学年教員等複数で対応したり、対策委員会や校内委員会で検討したりして、組織的体制で解決に向け取り組む。 ・上記のような取組や学年での取組を保護者会できちんと分かるように伝えていく。
15	独自特色ある学校の取り組み	学校は、宇宙の教室（2～4年）、JAXAとの共同授業、南極の話や間伐材を使ったつみき教室などを行い、科学技術や環境に対する興味・関心を高めるよう努めている。	88.3 (回答不能20)	66.2 (回答不能64)	・上の学年になるほど肯定的な意見が増えるのは、児童を通して話が伝わったり、作ったものを持ち帰ったりして、特色ある取り組みを理解していただいているからではないか。	・設問の「科学技術や環境に対する興味・関心を高める」が難しい。昨年同様「理科や自然」にしたい。	・学年だよりに、宇宙の学校、積み木教室等があることや学習内容を必ず書いて保護者に知らせる。活動後には、学校だより等でその時の取り組みの様子を知らせる。
16	独自特色ある学校の取り組み	子どもは、自分からすすんで、あいさつや返事をしている。		66.6 (回答不能2)	・設問は生活指導担当？（家での様子なのか、外での様子なのか、親はどの時点での子どものことを評価しているのか分からない。）	・学校が挨拶を推進している取り組みを見える化する。	・学校公開と挨拶運動を兼ねる。

	No	項目	設問	肯定的回答 R 2	肯定的回答 R 3	考 察	課 題	次年度の具体的な取組・方向性
児 童	1	学級経営	先生は、クラスみんなが分かり合い、協力し合えるようにしてくれている。	82.3	80.3	約8割の児童が肯定的である。しかし、毎年低くなっている。学年によってばらつきがある。	・教員は結果を真摯に受け止める姿勢をもつ。	・学級会でどの児童も意見を言えるような指導の工夫をする。 ・全員面談などを設けて児童一人ひとりの話を聞く。 ・学級の枠を超えて児童の話を聞き、情報共有をする。
	2	学習指導 学習の個性 化	授業では、学習を進める方法やペースを自分で決めながら学んでいる。		60.3	全学年50%を超えているが、肯定的回答が高くはない。	・国語で児童の感想をもとに単元計画を立てたり、総合で興味関心のある分野を探究したり、といった活動をしているが、児童の「自分で決めている」という実感が薄い。	・授業の中で児童自身が課題を設定し、課題を解決していく機会を増やし、児童が実感できるようにしていく。また低学年は学習の方法を選択肢で提示したり、課題解決の時間を児童に決めさせたりしていく。タブレットでの学習も並行して進めていく。
	3	学習指導 指導の個別 化	授業では、自分の得意なところを伸ばしたり、苦手なところを少なくしたりできるように、個別に教えてくれている。	48.1	45.3	全体として肯定的回答が3%弱、低くなった。	・児童数が多く、授業で個別対応する時間、場面が少ない。	・算数習熟度別指導を中心に、児童一人ひとりに寄り添い、個別に指導する時間を増やす。タブレットの「AIドリル」「学びポケット」といったアプリも積極的に活用していく。
	4	学習指導 探求の学び	授業では、自分の興味に基づいて問いや課題を立てて学んでいる。		64	全学年50%を超えているが、学年によって差異が出ている。	・児童が授業に対して受け身になっていることが多い。	・児童自身が課題を立てて学習する機会を増やす。またタブレットを活用し、自分の課題を把握し、解決していく学習も進めていく。
	5	協働的な学 び	授業では、自分が必要な時に、必要な仲間と協力しながら学んでいる。		74.9	全学年60%を超えている。新型コロナの影響で学習活動が制約される中ではいい結果と言える。	・新型コロナの影響でグループ学習や交流活動が制限されていた。	・コロナの状況を見ながら、できる限り児童同士の交流学习を進めていく。
	6	学習の成果	学校の授業によって、分かることやできることが増えている。	83.7	85	肯定的回答が1.3%高くなった。	・教員の指導力向上の成果が少しずつ出てきている。	・OJTや外部研修を通して、教員の指導力向上を続けていく。
	7	学習の評価	先生は、授業で自分ができたことを誉めてくれたり、間違えたところを教えてくれたりしている。	77.2	74.1	全体として肯定的回答が3%強、低くなった。	・児童を誉める、間違いをフォローするなど、実践しているが、まだまだ足りていない。	・児童一人一人に対して丁寧に対応し、適切な指導を重ねていく。
	8	ICT機器 の活用	先生は、授業において電子黒板やデジタル教科書を活用している。	95.3	93.3	児童の肯定的な意見には大きな変化はあまり見られない。	・タブレットPCが一人一台貸与され、活用範囲が一層広がっている。学級によって使用率の大きな差が出ないようにしていく。	・児童がさらに活用できるように、教員に対する授業活用方法の研修を実施していく。
	9	系統的・連 続的指導	先生は、今の授業で学習していることが、前の授業や今後の授業とどのようにつながっているか、教えてくれている。	70.3	73.2	肯定的回答が約3%高くなった。	・総合的な学習を中心に教科間のつながりを考える「カリキュラムマネジメント」が進んできている成果が出ている。	・授業の中で系統性を意識しながら、教科の中でのつながり、教科間のつながりを伝えていく。
	10	道徳教育	道徳の時間では、友達や家族、地域の人たち共に、よりよく生きることの大切さについて、みんなで話し合っている。	68.8	66.7	肯定的回答が約2%減少、学年により差が大きい。	・家族や地域の人と関わり合っているが、道徳教育とは関連付いていない。	・道徳の時間以外で、家族や地域の人と関わり合っていることを道徳の時間にも関連付けて指導する。
	11	体育・健康 教育	先生は、健康な生活を送るために必要なことを教えてくれている。	68.8	75.6	約7割の児童が肯定的である。昨年に比べ約7%高くなっている。	・学校全体で共有できる取組がない。	・長縄週間、短縄月間などの際に、子供と一緒に取り組んだり、ポイントを指導したりし、一緒に取り組むことを意識する。 ・体力テストの分析をもとに体育の授業に活かしていく。 ・体育委員中心に体力テストのポイントを作成し掲示する。

12	地域連携	地域の行事に参加している。		43.6	コロナ禍で地域の行事がないため、肯定率が低いと思われる。	・行事の想像がしにくい。設問に、具体例を入れるとよい。	・教師が地域の行事への参加を後押しする。
13	地域連携	先生は、地域の人たちと協力しながら、授業や学校行事をよりよくしてくれている。	56	61.1	昨年度より5%、また一昨年度よりも高くなっている。	・地域の方に協力していただいていることを、子供たちに折に触れ伝える。	・地域の方やCSの方から支援を受けていることを児童に紹介するなど、関わりがあることを伝え理解を求める。
14	教育相談体制	友達や先生、家族のことなどで悩んだとき、学校に相談できる大人（担任の先生、専科の先生、スクールカウンセラー、等）がいる。		69	約7割の児童が肯定的である。しかし、悩みを相談できないと感じている児童が約126人いる。	・3,4年生はSCの存在を知らない。 ・専科も少なく関わる大人の人数が少ない。 ・設問の内容が児童には理解しづらい。	・子供が安心して学校生活を送ることができるよう、教員の教育相談力を向上させる。 ・学年便りにSC来校の日を載せる。 ・SCと子供が相談できる時間を確保するために、極力中休み・昼休みは空けてもらえるように調整する。 ・SCに廊下や教室の巡回をしてもらい、子供たちに存在が伝わるようにする。教員も空き時間等に廊下の巡回をし、児童の様子を把握するようにし、自分たちの存在も子供たちにわかるようにしていく。 ・いじめアンケートや体罰アンケートを通してどの先生にも相談していいことを伝えていく。
15	独自特色ある学校の取り組み	先生たちは、宇宙の教室を行ったり、JAXAや、極地研究所の方を招いたりして、科学や技術に対する興味や関心を高めてくれている。	79	72.2	全体で昨年度より7%低くなっている。学年によってばらつきがある。	・設問の「科学や技術」がイメージしにくかったのではないかと。「理科や自然」の方がよいと思われる。	・アンケートを取る前までに、宇宙の教室やJAXA、極地研究所の方の話を実施する。実施の際は、授業の何が科学や技術に関係しているのか、児童に理解できるように話す。
16	独自特色ある学校の取り組み	自分からすすんで、あいさつや返事をしている。		83.7	声の大きさ、態度に関係なく、挨拶をしていると思っている児童が多い。	・6年生の態度は素晴らしい。以前のような取組ができるとよい。	・たてわり班による挨拶運動の実施

【第三者委員会の意見】

学校が重点として挙げた改善策、①教員の指導力向上、②学級経営の充実に真剣に取り組んでいこうとする姿勢を感じた。今後、次年度の教育課程や学校経営方針の中に、具体的な取組が見えてくるとよい。そして、安心・安全な学校を学校運営協議会と共に、作り上げてほしい。